



## ● 日本イェイツ協会第 50 回大会報告

2014 年度の年次大会は 11 月 8 日(土)、9 日(日)の両日に早稲田大学戸山キャンパスにおいて開催しました。

日本におけるイェイツ研究の先鞭をつけイギリス・ロマン派を初めイェイツに関する数々の優れた業績を残した故尾島庄太郎博士を初代会長とし、当時の英文学会の主だった研究者たちが集い、第 1 回大会を開催したのは早稲田大学でした。1964 年に日本イェイツ協会設立委員会が発足して以来、半世紀を迎える記念大会として、第 50 回大会の準備から終了まで、榎木伸明氏、諏訪友亮氏ならびに文学部の大学院生のご尽力と細やかなご配慮をいただき、心より感謝申し上げます。

初日には、基調講演、研究発表 2 本、シンポジウム、2 日目には、研究発表 3 本、ワークショップというプログラム構成で大会が運営されました。

初日 8 日(土)の開会の挨拶には、早稲田大学の江田孝臣氏から「長期に渡り個人名を冠した学会がこれほどの規模で開催されるのは驚きであり特筆すべきこと」というご挨拶の後、駐日アイルランド大使の Anne Barrington 氏が、公務多忙の折りにもかかわらず、会場に足を運ばれ協会設立 50 周年の祝辞を述べてくださいました。大使からは、「これまでの日本イェイツ協会の活動が、日本とアイルランドの学術的交流に大きな役割を果たしてきたことは本国アイルランドにおいても、広く認識されており、多くの日本の研究者がイェイツ研究に真剣に取り組んでいることに感銘を受けている。また本国アイルランドにおいてもイェイツ研究の新たな高まりと再評価の機運があり、広がりつつあるイェイツ研究を通じ日本・アイルランド両国ならびに他の諸外国との交流が促進されるよう、これからの進展を期待すると同時に今後も協力し合い友好的な関係が深められるよう望む。これまでの日本イェイツ協会の貢献し感謝するとともに、活発な学術活動と今後の隆盛をお祈りする」という祝辞をいただきました。

基調講演には、松村賢一氏(中央大学名誉教授)がこれまでの 50 年の歩みをたどった後、「海の変容—イェイツのビサンツ詩篇をめぐって」と題し、地中海文明ならびに世界文学の視座からイェイツの作品をどうとらえるかというテーマで講演。その後、奥田良二氏(東海大学教授)が「イェイツによる反覆のレトリック」(司会 山崎弘行氏)、伊達恵理氏(明治大学非常勤講師)が『私』の在り処—*The Winding Stairs and Other Poems*に見る自我と魂(と肉体)の設定」(司会 浅井雅志氏)とそれぞれ題し研究発表。

今年度の総会は、司会を三宅伸枝氏にお願いし、議長として小菅奎申氏を選出。委員改選の結果報告と会長選

出結果(次項参照)、会計報告、『イェイツ研究』の著作権に関する規約ならびに会員への通知などの審議があり了承され、国際イェイツ協会の活動予定など海外組織の活動などの報告がありました。

午後には、萩原眞一氏(慶應義塾大学教授)の司会・構成によるシンポジウム「イェイツとソポクレス」があり、パネリストとして伊達直之氏(青山学院大学教授)と三好みゆき氏[中央大学教授]、ならびにゲストパネリストとして、ギリシア古典学者の西村太良氏(慶應義塾大学)をお招き、イェイツの劇作および詩に援用されたギリシア古典理解について、文学、時代思潮ならびに文献学的視点から活発なディスカッションが行われました。

翌 2 日目の午前中に柿原妙子氏(東京大学大学院生)が「不気味な支配者か、美のエンブレムか—イェイツの〈人形詩〉を読む」(司会 佐藤容子氏)、星野恵里子氏(沖縄高専教授)が「消えたブレイクの『薔薇』」(司会 及川和夫氏)、石川隆士氏(琉球大学教授)が「*Noli me Tangere* “Nineteen Hundred and Nineteen”における触れる風」(司会 谷川冬二氏)とそれぞれ題し研究発表。

午後には、榎木伸明氏(早稲田大学教授)の司会・構成によるワークショップ「イェイツ再読—〈世界文学〉として」を行いました。ゲストパネリストとして現代詩人の武子和幸氏と杉本徹氏をお迎えし、協会のパネリストを真鍋晶子氏(滋賀大学教授)が務めました。実作者側がどのようにイェイツを解釈し、さらに自作への影響がどのような形で表れているのか、研究者側の解釈とどのような差異が認められるか、世界文学の視点からイェイツをどう読むかなどが話し合われました。実作者をゲストとして招聘した試みは、大変評価され、文学研究が専門家の中だけでなされるだけでなく、外に開き多くの人を包含した研究活動をさらに期待する声が多く寄せられました。

大会両日を通じて、会員のみならず会員外からの参加が多かったのは嬉しいことでした。例年のことではありませんが、フロアからの質疑応答やディスカッションが熱を帯び、時間内に収まりきれず情報交換会の場においても、議論が所々で交わされていました。閉会の辞では、虎岩正純氏(早稲田大学名誉教授)がイェイツの魅力が研究者内にとどまらず、大胆な試みを行い外部に向けて発信することの重要性を力説され、2015 年度はイェイツ生誕 150 周年を迎えると同時に、本格的に本国アイルランドのリメリック大学において第 1 回国際イェイツ協会の大会が開催されることになったこともあわせて、さらに今後のイェイツ研究の発展を願い、盛会の内に終了しました。

## ● 委員改選結果ならびに新会長選出

2014年11月を持って委員の任期終了にともない、新委員の選挙を郵送により行い、岩坪、海老澤、奥田、伊達恵理、松村の各氏5名で構成された選挙管理委員会は、選挙立ち合い人として星野恵理子氏が加わり、2014年10月25日(土)法政大学にて厳正に開票作業を行いました。その結果、以下の23名の方々が11月7日(金)の委員会で選出され、翌8日(土)の総会において承認を受けました。

浅井雅志、池田寛子、石川隆士、岩田美喜、岩坪友子、海老澤邦江、奥田良二、木原謙一、小堀隆司、薦田嘉人、佐藤容子、谷川冬二、伊達恵理、伊達直之、虎岩正純、中尾まさみ、萩原真一、松田誠思、松村賢一、真鍋晶子、三神弘子、三好みゆき、山崎弘行(敬称略)

それに伴い、奥田良二氏が新会長として選出され総会において承認を受けたことをご報告いたします。

その後、12月20日(土)滋賀大学において委員会が開催され、事務局長＝海老澤邦江、会計＝伊達恵理氏、『イエイツ研究』編集長＝三好みゆき氏が推薦され承認を受けました。今後とも会員の皆様からのご理解とご協力をお願い申し上げます。

## ● 新会長挨拶

このたび、小堀隆司前会長の後を引き継ぎ、会長に就任することになりました。前会長の協会へのご貢献に対し感謝申し上げますとともに、私には荷が重いところでありますが、前会長の思いを受け継ぎ、また新たな協会の姿を模索していきたいと思っております。

今年は、イエイツ生誕150周年の記念すべき年であり、そして来年はイースター蜂起100周年にあたるなど、イエイツにゆかりのある年が続きます。日本イエイツ協会も設立50周年を迎えました。時が経過することによって、イエイツや協会が古くなっていくのではなく、私たちがイエイツの研究を深め、新たな発見をしていくことで、常に新鮮なものにしていくものだ確信しております。これは協会の使命でもあり、そのためにも、新しい研究者を増やし、この50年の間に培われた叡智とその新しい力を結集して、協会が日本だけでなく、世界におけるイエイツ研究の重要な拠点となるように努めていきたいと思っております。

国際イエイツ協会も設立され、10月にはリムリックで第1回大会が開かれます。私たちは、今後、海外のイエイツ協会と連携していくことも考えなければならないでしょう。日本の協会としての独自性を守りながら、海外のイエイツ協会と接触することによって、日本イエイツ協会とイエイツ研究がより活発になり、発展していくことを望んでいます。

微力ではありますが、会員の皆様のご支援と委員の先生方のご協力を得ながら、ますます充実した協会になるよう精一杯努力をしていく所存でございますので、よろしくご報告いたします。

会長 奥田良二

## ● 「イエイツ・デイ in Japan 2014」大阪で開催

2014年11月15日(土)に駐日アイルランド大使館主催「イエイツ・デイ in Japan 2014—レクチャー・シリーズ」が大阪のナレッジキャピタル内ナレッジサロンで開催されました。基調講演「1916年の復活祭蜂起とW.B. イエイツ」を松田誠思氏が行い、ポエトリー・リーディングには浅井雅志氏が参加。また、アイルランド伝統音楽奏者ニューヴ・ニ・カラ氏、ショーン・ウィーラン氏が(イエイツ、スライゴーにちなんだ曲目を演奏し、来場者を魅了しました。

## ● 2015年 第51回大会のお知らせ

2015年度 第51回大会を11月7日(土)、8日(日)の両日に渡り、西南学院大学(福岡)において開催予定です。開催にあたっては、三宅敦子氏のご尽力をいただくことになり、心より感謝申し上げます。

今年はイエイツ生誕150周年を迎えます。それを記念し、より充実した大会の実現を目指しております。

現在、記念講演もしくはそれに準じた催しの担当予定者と交渉中です。

シンポジウムのテーマは、「イエイツと1930年代」(仮)とし、その時代の他の詩人たちとの関係などからイエイツを多角的、様々な視点から検討する予定です。

ワークショップは、「イエイツのナショナリズムを問いなおす」をテーマとします。司会・構成を務める松田誠氏から以下のように趣旨をいただいています。

「イエイツにおけるナショナリズムの意義を検討することは、彼の文学活動評価の重要な機軸の一つであるが、アイルランド古来の文化伝統の再発見、同時代の社会的現実に対する彼の関心と対応によって自己意識を更新しながら(アイルランド的なもの)を定義しなおす営みとして、それが展開されているので、単に政治と文化における「脱英国的な」自立性を宣揚するナショナリズムとは区別されなければならない。イエイツ批評史においても賛否さまざまの議論の多いこの問題を再検討するため、指標となるいくつかの詩作品を選び、発題者による問題点の提示、それを踏まえた肯定・否定両面の討論をフロアに期待したい。議論の指標として取り上げる作品の例としては、差し当たり'September 1913', 'To a Shade', 'Easter 1916', 'Parnell's Funeral', 'The Statues', 'The Black Tower', 'Under Ben Bulbin'などが挙げられるが、作品の特定は発題者の希望も考慮して決める。」

ディベートを意識してフロアとの活発なディスカッションの実現を目指した、斬新かつ意欲的なワークショップで、今後のイエイツ研究のさらなる深化と活性化につながるものと思われれます。

シンポジウムとワークショップにご参加をご希望の方は、4月末日までに、事務局にお申し込みください。

また、研究発表を希望される方は、5月末日までに、タイトルと概要を添えて、事務局にお知らせください。

会員の皆様からの積極的なご参加をお待ちしております。不明点などは、事務局にお問い合わせください。

### ● 著作物電子化にともなう著作権について

著作物の電子化への作業を進めていますが、それにともない、『イエイツ研究』投稿規定の追加事項、ならびに電子化への同意に関するお願いが総会において承認されました。その詳細については、別紙を同封しましたので、ご覧ください。

### ● International Yeats Society 第1回大会のお知らせ

国際イエイツ協会の第1回大会が、アイルランドのリメリック大学で2015年10月15日から18日にかけて開催されます。

日本からは、奥田良二氏、佐藤容子氏、眞鍋晶子氏が発表者として参加予定です。

また、国際イエイツ協会の会費が次のように決定したとの報告がありました。

日本イエイツ協会会員の場合は、提携学会の特別会員として一年間一人当たり20ユーロ(約3000円弱)[二年分35ユーロ]、学生は10ユーロ[二年分15ユーロ]。(これによりメンバーだけのサイトにアクセスできる。)

### ● Daniel Albright 氏ご逝去

2015年の年明け早々に、日本にも多くの知人・友人がおられる Daniel Albright 氏の訃報が事務局に届きました。また、イエイツ研究を進めるうえで、氏の御著作を日本の研究者誰もが参考にするほど、優れた研究を発信しておられました。すでにホームページでは掲載してありますが、会長の奥田良二氏の追悼文を再掲するとともに、来日された際、当協会の会長であった山崎弘行氏の追悼文を頂戴しました。

\*\*\*\*\*

ハーバード大学教授でイエイツ研究に多大な貢献をされたダニエル・オールブライト先生の突然のご逝去の報に接し、謹んでお悔やみ申し上げます。2005年の京都での第41回大会に先生をお招きし、講演“Yeats and Science”を行っていただき、またシンポジウム“Yeats, Beckett, Noh”にもパネラーとして参加していただきました。先生の深く鋭い洞察力に感銘を受けたことを憶えております。ご家族と同僚の皆様にご心より哀悼の意を表します。

日本イエイツ協会会長  
奥田良二

It is with great sorrow that we have heard the sad news of the sudden passing of Professor Daniel

Albright of Harvard University, who had made so much contribution to Yeats studies. The Yeats Society of Japan invited him to Kyoto in 2005 to give us the lecture “Yeats and Science” and to participate in the Symposium “Yeats, Beckett, Noh” at our 41<sup>st</sup> Annual Conference. We were all inspired by his deep and acute insight into the subjects. We would like to offer our heartfelt condolences to his family and his colleagues.

Prof. Ryoji Okuda

President, The Yeats Society of Japan

Daniel Albright 氏が1月3日に69歳で逝去された。顧みると、氏は「申し分ない自己」の探求者としてイエイツを位置づけた *The Myth against Myth* と *W.B. Yeats* でイエイツ研究者としての名声を確立する。しかし、やがて *Quantum Poetics* と *Untwisting the Serpent* で新領域の開拓者としての相貌を呈し始める。前者は文学と科学の相関性を、後者は文学と音楽の相関性を論じた学際的な著作である。最近では、芸術諸分野の統合のあり方を究明した *Panaesthetics* を公刊し、この分野の先駆者として注目されていた。氏の一連の著作はご自身の「申し分ない自己」を探求し続けた氏の精神の軌跡にほかならない。心よりご冥福をお祈りする。

山崎弘行

\*\*\*\*\*

Albright 氏のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

### ● 寄贈図書

『ショーン・オフエイロン短編小説全集』第3巻

(風呂本武敏=監訳、薪水社 2014年9月 2800円)

『ヘミングウェイとパウンドのヴェネツィア』

(今村楯夫/眞鍋晶子著 彩流社 2015年1月 1900円)

『戦争・文学・表象—試される英語圏作家たち』(福田敬子、伊達直之、麻生えりか=編、音羽書房鶴見書店 2015年2月 3500円)

ご寄贈いただきまことにありがとうございました。著者の方々には心より御礼申し上げます。

### ● 会費納入のお願いとお知らせ (重要)

2015年度会費納入(一般5,000円、学生2,000円)をまだ済まされていない方は、ゆうちょ銀行の振込用紙の通信欄に「2015年度会費」と明記して納入してください。協会は、会員の皆様方の会費で運営されております。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

<ゆうちょ銀行>

口座記号 00120-9

口座番号 179621

加入者名 日本イエイツ協会

現在の口座は、2015年9月末日を持って終了する予定です。新規口座につきましては、次号のユニコーンで通知いたしますので、ご了承くださいませようお願い申し上げます。

## ● 会員の住所・所属等の変更について

会員の皆様の住所・メールアドレス・所属等の変更につきましては、お手数をおかけしますが、メールもしくは郵便等で下記の事務局までお知らせください。ご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



\*\*\*\*\* *The Yeats Society of Japan* \*\*\*\*\*

日本イエイツ協会事務局  
〒270-0198 千葉県流山市駒木 474  
江戸川大学  
メディアコミュニケーション学部  
情報文化学科 海老澤研究室内  
Tel: 04-7152-9923  
Fax: 04-7153-5904  
Email: [mkunie@edogawa-u.ac.jp](mailto:mkunie@edogawa-u.ac.jp)  
URL: [the-yeats-society-japan.jp](http://the-yeats-society-japan.jp)

